

福島第二原子力発電所 プラント状況等のお知らせ (日報：平成 25 年 2 月 27 日)

平成 25 年 2 月 27 日
東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

福島第二原子力発電所では、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う津波の影響により、1, 2, 4 号機において原子力災害対策特別措置法の規定に基づく該当事象が発生し、同年 3 月 12 日、内閣総理大臣による原子力緊急事態宣言が発出されました。

その後、電動機等の復旧や残留熱除去ポンプの機能回復等の緊急事態応急対策を実施し、同年 3 月 15 日までに全号機で冷温停止を達成しました。

以後、同対策を継続して実施し、電源供給機能や残留熱除去機能の多重化を図るなど、プラントの安定的な冷温停止の維持に努めた結果、同年 12 月 26 日、内閣総理大臣により当所の原子力緊急事態解除が宣言され、原子力災害対策特別措置法に基づく原子力災害事後対策の実施段階に移行しました。

同対策を実施するにあたり、原子力事業者防災業務計画に基づく復旧計画を策定（平成 24 年 1 月 31 日提出、同年 5 月 31 日改訂 1、同年 10 月 16 日改訂 2、同年 11 月 21 日改訂 3）し、プラントの冷温停止維持に係わる設備等の本設復旧を計画的に実施しています。

本日午後 3 時現在のプラント状況等について、別表および以下のとおりお知らせします（下線部が新規事項）。

○協力企業作業員のけが（踏み台からの落下）に係る原因と対策について

1. 事象の発生状況

平成 25 年 1 月 28 日午前 10 時 29 分頃、1 号機原子炉建屋付属棟地下 1 階にある所内高圧電源設備配電盤室（管理区域*）でケーブル修理作業をしていた協力企業作業員が、可搬式踏み台（天板高：約 0.9m）より落下し左肘を負傷したため、救急車を要請し、福島労災病院へ搬送しました。

当該作業員に意識はあり、放射性物質の付着はありません。

診察の結果、「左肘関節脱臼骨折により約 2 週間の入院、その後定期的な通院加療を要する」と診断されました。

（平成 25 年 1 月 28 日、1 月 29 日お知らせ済み）

2. 調査結果

調査の結果、以下のことがわかりました。

- ・当該作業員は、踏み台に乗りケーブルの締め付け確認作業を実施した後、締め付け部のチェックマーク付けのため、ペンを取ろうとして踏み台を降りようとした際、バランスを崩して踏み台の棧より落下した。
- ・当該作業員は、ペンの置かれた台の方を見ながら踏み台を降りたため、足下

をよく確認していなかった。

3. 推定原因

当該作業員の負傷原因を以下のとおり推定しました。

- ・踏み台の昇降高さが低い（天板高：約 0.9m）ため、当該作業員に油断が生じ、降りる際の危険予知が不足していた。

4. 対策

本事象の内容について、所員ならびに協力企業に周知するとともに、今後、以下の対策を実施し、再発防止に努めます。

- ・天板高 0.7m以上の可搬式踏み台については、手掛かり棒が設置されているものを使用することをルール化する。

* 管理区域

放射線による無用な被ばくを防止するため、また、放射性物質による放射能汚染の拡大防止をはかるために管理を必要とする区域。

○4号機 原子炉格納容器圧力抑制室点検（水中作業）について

4号機原子炉格納容器圧力抑制室については、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響を確認するため、平成25年2月28日より、水中作業による目視点検を開始します。

以 上

福島第二原子力発電所 プラント状況（平成25年2月27日 午後3時現在）

別表

		1号機	2号機	3号機	4号機	参 考
原子炉の冷却	原子炉の状態	冷温停止中 (全制御棒全挿入)	冷温停止中 (全制御棒全挿入)	冷温停止中 (全制御棒全挿入)	全燃料取出完了 (H24/10/24)	●冷温停止とは、原子炉水の温度が100℃未満で原子炉が未臨界の状態をいう。 ●左記の水温は午後0時現在の温度。 ※全燃料取出完了に伴い、「-」表示に変更
	原子炉水の温度	29.4℃	25.2℃	26.6℃	— ※	
	残留熱除去系（A）	不待機	運転中	不待機	不待機	●残留熱除去系1系列と原子炉冷却材浄化系にて原子炉の冷却を行っている。 ●原子炉冷却材浄化系は、原子炉水を浄化する装置だが、原子炉の冷却機能も有する。残留熱除去系2系統が停止したとしても、本システムにより、原子炉の冷温停止状態を安定的に維持することが可能。
	残留熱除去系（B）	不待機	待機中	運転中	待機中	
	原子炉冷却材浄化系	運転中	運転中	運転中	待機中	
使用済燃料プールの冷却	燃料プール冷却浄化系	運転中	運転中	運転中	運転中	●使用済燃料プールの水温を65℃以下に保つよう、燃料プール冷却浄化系で冷却している。 ●左記の水温は午後0時現在の温度。
	使用済燃料プール水の温度	22.7℃	25.9℃	28.2℃	27.1℃	
外部電源		受電有	受電有	受電有	受電有	●当所の外部電源は、富岡線1号・2号（500kV系）、岩井戸線1号・2号（66kV系）の4回線がある。
非常用電源	非常用ディーゼル発電機（A）	待機中	待機中	点検作業中	点検作業中	●外部電源喪失時のバックアップとして、非常用ディーゼル発電機2台が動作可能な状態を確保している。なお、非常用ディーゼル発電機は、複数の号機で共用することが可能である。 ●発電所構内には、全交流電源喪失時に原子炉や使用済燃料プールに注水するための電力を供給する電源車を配備している。
	非常用ディーゼル発電機（B）	不待機	待機中	待機中	待機中	
	高圧炉心スプレイ系非常用ディーゼル発電機	復旧作業中	待機中	待機中	待機中	
モニタリングポスト (空間線量率の測定)		・発電所構内に7基（No.1～7）設置しているモニタリングポスト（環境中の放射線量を測定）の測定値に有意な変動はありません。 ・当社ホームページでモニタリングポストの測定値（空間線量率）を公開しています。 http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f2/index-j.html				
特記事項		・1号機残留熱除去系（B）補機設備の電源ケーブル切替作業等に伴い、残留熱除去系（B）をH25/2/25 10:10～H25/3/1まで不待機。 ・1号機非常用ディーゼル発電機（B）補機設備の電源ケーブル切替作業等に伴い、非常用ディーゼル発電機（B）をH25/2/25 10:16～H25/3/1まで不待機。 ・3号機残留熱除去系（A）の補機設備の点検に伴い、残留熱除去系（A）をH25/2/6 9:40～H25/3/29（予定）まで不待機。 ・3号機非常用ディーゼル発電機（A）の機関および補機設備の点検に伴い、非常用ディーゼル発電機（A）をH25/2/6 9:40～H25/3/29（予定）まで不待機。 ・4号機残留熱除去系（A）のポンプおよび補機設備の分解点検に伴い、残留熱除去系（A）をH25/1/8 9:46～H25/3/5（予定）まで不待機。 ・4号機非常用ディーゼル発電機（A）の機関および補機設備の点検に伴い、非常用ディーゼル発電機（A）をH25/1/8 9:46～H25/3/1（予定）まで不待機。 ・1号機残留熱除去系（A）の電源設備取替作業、分解点検等に伴い、残留熱除去系（A）をH24/9/20 10:00～H25/3/21（予定）まで不待機。				